

城山エコミュージアム通信

平成28年(2016)9.15 第29号



エコミュージアムとは、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

地域紹介

原宿地区



Shiroyama Area

400年前の都市計画

はらじゅく

— こうして原宿の町は生まれた —

戦国時代の争乱が治まると、農民たちはより豊かな暮らしを求めて生産に励み、物資の交流を盛んにさせました。川尻村は山地と平地の間にあり生産物の交換の場所に適しており、代官は津久井全体の利益と川尻村の潤いにもなると、久保沢に市を開くよう命じました。上下川尻村の二人の名主は協力して村人をはじめ近隣の農民を集めて久保沢に市を開きました。

間もなくして、下川尻村の名主が、市の利益を上川尻村の名主が一人占めしていると代官に訴えました。久保沢の市は谷津川の淵に沿った狭いこともあって、代官は東側の原野にもう一つ市を設けるよう命じます。下川尻村の名主利兵衛はそれに従い、村の北を流れる境川から用水堀を掘って生活のための水を確保し、原野に新しい市の町を開発しました。このようにして建設されたのが原野の中の宿場「原宿」です。

昔から人は水の得やすい小川のほとりなどに住み、田畑を耕し村をつくって暮らしてきましたが、原宿は生産物の交換、交易をするために用水を引き、各家の背後に短冊の形に土地を区割りして町をつくりました。現在の言葉で言えば都市計画で、およそ400年前、近世といわれる江戸時代の新しい町が原宿です。「うちの先祖は八王子から来て、家の中まで炭俵をうけた馬が出入りしていた」と伝えている家があります。大きな商いをする近世の農民の姿が伝えられています。寛永7年(1630)には34軒の家が左右に並び、市はその後廃止されますが、常設の商いをする農家として昭和40年代まで原宿用水を大切に暮らして来ましたが、原宿用水の跡を歩くと小松川の上に水路をかけた取水口より高い所に水を引く工夫がされています。現在の原宿地区は、人の住みやすい人口の多い住宅地ですが、昔の人の知恵と努力を忘れないようにしたいものです。(山口 清)

(2頁に原宿用水跡図を掲載)



原宿バス停前



原宿用水取水口(広田)

今回のトピック 地区紹介「原宿地区」
シリーズ養蚕「蚕の飼育」
城山検定「秋の七草」
ツアー紹介・活動紹介他



原宿用水マップ



原宿用水取水口付近 (昔)



原宿用水取水口 (現在)



原宿用水取水口 (昔)



原宿用水架橋



原宿用水跡



原宿用水堀跡 (現在)



原宿用水堀跡 (昔)



原宿市跡 (原宿俱樂部跡)



原宿防火用水池跡



若宮橋跡



洗い場跡

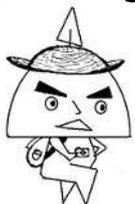


水田跡



国道 413 号線原宿バス停付近 (昔)

ご案内



10月22日(土)開催城山エコミュージアムツアー「境川流域の自然と歴史を訪ねる～町屋から当麻田方面へ～」では、原宿用水の一部をご紹介します。

当日は城山地区と隣接する相原地区を歩きます。相原地区ではかつて原宿用水と同じく境川から取水した当麻田用水を築き水田に水を引きました。境川を通じてガイドを加えながら歩くツアーです。今回は、相原地区ガイドを相原の歴史をさぐる会にご協力を頂きご案内します。皆さまのご参加をお待ちしています。お申込については4面をご覧ください。

第7回 ^{ようさん} 養蚕 (蚕の飼育に挑戦・3年目の記録)

シリーズ

養蚕



相模原市立博物館のお手伝いで蚕を飼いはじめて3年目、今年はちょっと遅めの6月10日に3日前にふ化したばかりの蚕を50頭ぐらいということで預かりました。3名で一人20頭ぐらいに分けて育てることになりましたが、16日に脱皮した蚕たちを数えてみると、私のもとに来た蚕はなんと46頭! 昨年の5倍の上、近くの桑の木は切られてしまい…。幸い、もともと養蚕が盛んだった土地柄が、よく見るとあちこちに桑の木が葉を茂らせています。

まずまず順調に眠と脱皮を繰り返し4齢を過ぎると、よく食べる。昔の養蚕農家の方が、蚕がクワを食べる音がうるさかったと言っていた通り46頭が一斉に食べるとシャクシャク音が聞こえます。レジ袋いっぱい採ってきた葉もあっという間に無くなっていきました。



幼虫





幼虫

こんな大きな眼玉で見詰められるとドッキリします。でも良く見ると愛嬌がありますね。これは眼では無く眼紋と言って、刺激を受けると頭の部分を丸めてこの部分をより大きく見せて、敵を威嚇するポ - ズの様です。鳥などの天敵から身を守る術なのでしょう。アケビやヒイラギナンテンなどの葉を食樹とし、周りに大きな糞を落とします。終齢になると食樹の葉を丸めてその中で蛹化します。成虫は、枯れ葉そっくりの前翅をつけ、果実などを吸汁し農家からは嫌われます。羽を閉じた姿は、全く枯れ葉と見間違う位に擬態化します。写真の幼虫は10

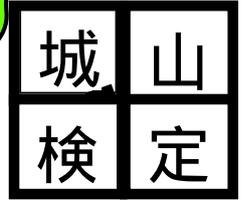


成虫

月後半に自宅のヒイラギナンテンで見つけました。木の下に大きなフンが沢山落ちていたので発見出来ました。成虫は偶然にも同じ日に農園で見つけました。最初は何だろうと思い小枝で触れて見たら飛び立ち、近くに止った時のものです。すぐに羽を閉じ枯れ葉の様になって固まってしまいました。

(塩谷 弘道)

知ってナットク!
しろやま



問題

秋の七草は、皆さんご存知でしょうか？

ハギ、オバナ(ススキ)、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウです。

Q.この中で、マメ科の草花がありますが、どれだか分かりますか？

(出題者 榎本 克義)



この花がヒント

繭を作り始めた7月3日まで、朝に夕に葉を採りに行く日が続きました。せっかく46頭いるので、今回は試しに昔使われた藁蔭(わらまぶし)というものを使ってみようと思い、作り方を聞いて想像して作りました(写真)。ボール紙で作った蔭も使い、行儀よく並んだ繭を見て達成感を味わいました。数頭育ちが遅く博物館へ繭として届けられなかったものがありました。後に繭を作り成虫になり卵を産んだものもありました。(田畑 房枝)



藁蔭につくられた繭



成虫(オス)



成虫(メス)産卵中



ボール紙の蔭につくられた繭



城山公民館事業協力 自然観察会
「みんなでホタルを見に行こう」協力



いざ観察会場へ

6月18日、城山公民館主催のホタル観察教室に講師として参加しました。城北センターで講義を行った後、外へ出てホタルの観察を行いました。ゲンジボタル、ヘイケボタルと2種のホタルを観察でき、またカエルの鳴き声を聞きながら、城山の自然を堪能した1日となりました。(齋藤 雄也)

INFORMATION

城山エコミュージアムツアーいよいよ開催！ テーマ：境川流域の自然と歴史を訪ねる ～ 町屋^{まちや}から当麻田^{たいまだ}方面へ～

開催日：平成28年10月22日(土)
午前9時～午後4時

雨天、荒天の場合は、10月23日(日)に順延

内容：町屋から当麻田方面の自然と歴史について、ガイド説明付きで歩きます。

集合場所：城山公民館 入口ピロティ / 解散場所：相原公民館

参加費：500円(当日集金)

定員：40名(先着順)

企画・運営：相模原市城山エコミュージアム運営委員会

申込み：城山公民館 電話 042-783-8194【直通】

申込期間：10月12日(水)まで受付

月曜日、祝日の翌日を除いた午前8時30分～午後5時

次号(第30号)は、12月15日頃発行予定です

城山検定

解説



答え ハギ・クズ

答えは、ハギとクズです。

特にクズは、大豆に近い種類で、花(葛花)は、イソフラボンを沢山含むので、機能性食品としても注目されています。緑化の為に、米国のテキサスに持ち込んだところ、大繁殖してしまい、困ったそうです。日本では冬の寒さで枯れてくれますが、テキサスでは年中、はびこって、手に負えなくなるようです。城山地区では、城山バス停付近から、中沢の三本松バス停付近で多く見られます。写真はクズの花です。(榎本 克義)



今後の予定

主催事業

10月22日(土)
城山エコミュージアムツアー

出展事業

11月5日(土)・6日(日)
城山地区市民文化祭(展示の部)
11月
市立博物館「学びの収穫祭」
2月
相模原市市文化財展

事業協力

10月9日(日)
市文化財探訪ガイド協力
「城山エコミュージアムを歩く」

11月11日(金)
城山公民館事業
城山かたくり学級ガイド協力



編集後記

今年のエコミュージアムツアーは町屋から当麻田方面を訪ねる。巻頭の「400年前の都市計画」はその予告編だ。原野だった地に町ができ「原宿」になり、市ができその後廃止され、常設の商いをする農家(商店)となったという。市はなぜ消えていったのか。ツアーで答えを見つけない。過去を知り、今を知ることは、未来を知ることにつながる。(佐々木 徹)

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会

発行：相模原市立城山公民館

TEL：042-783-8194【直通】

FAX：042-783-1721

ホームページをパソコンで見るとは

相模原市 城山エコミュージアム

検索

相模原市立城山公民館ホームページ

<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/shiroyama-k/index.html>

